

骨格提言の完全実現を求める 2020 大フォーラム

連帯のご挨拶

みなさん 骨格提言の完全実現を求める 2020 大フォーラムに参加させていただき、ありがとうございます。日本障害者協議会（JD）の増田一世です。

さて、実際に合うことが難しく、バラバラになりがちな状況の中で、さまざまな困難をクリアされて、全国の会場をオンラインで結び、私たちのつながりが実感できる集会を開催されることに改めて敬意を表したいと思います。こんな時期だからこそ、私たちはどこに向かっていくのかを語り合い、何が大切なのかを考えていく機会は本当に貴重だと思っています。

最近、日本学術会議の新会員の 6 人を総理大臣が任命しないといった前代未聞のことが起こりました。JD では看過できないこととして、声明を出しました。今の政府は、自分たちに都合の悪い人を遠ざけ、多様性を認めず、異論を排除する姿勢が露骨です。とても生きにくい社会に傾斜していくことに、危機感が高まっています。こんな時期だからこそ、障害分野での経験を生かすことができるのではないかと考えます。

私たちは障害者自立支援法に対し、応益負担はおかしいと主張し、裁判に訴え、主張の正当性を認めさせた障害者自立支援法違憲訴訟を経験し、国と基本合意を結びました。

そして、その動きと合わせて、障害者権利条約という大きな後押しがあり、障がい者制度改革推進会議総合福祉部会では、55 人のさまざまな立場や意見をもつ委員がそれぞれの意見を出し合い、意見の対立があっても一致点を見出しつつまとめ上げたのが骨格提言です。そのプロセスも含め世界に誇るべき政策文書です。

しかし、その実現への道りは容易ではありません。でもあきらめない、くじけない、ぶれないで、前に進めていきたいと思っています。そのためには「つながる」ことです。そして、障害者権利条約の日本の審査も予定されています。国連の障害者権利委員会からの総括所見も活かしながら、骨格提言の実現に向けてみなさんとともに歩んでいきたいと願っています。

JD は今年 40 周年を迎えます。その節目にあたり 12 月 12 日にオンライン集会 国際障害者年前夜から 40 年をたどり未来を展望する集いを開催します。ぜひ、そちらにもご参加いただければ幸いです。

最後に大フォーラムの盛会を祈念しつつ、連帯のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。